
世界を周るは転生者(チート)inけいおん！

チルノ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

世界を周るは転生者・チートわけいおん！

【ZPDF】

Z2982Z

【作者名】

チルノ

【あらすじ】

神様のミスで死んでしまった、風華 桜花（男）
お詫びとして一方的に転生生活をさせられることになる。
与えられる能力はまさしく万能で凡庸性のあるチートだった。
様々な世界で生きていく覚悟を決めた桜花は、能力を生かしたくま
しく生きていく。

転生 プロローグ～序章～（前編）

よろしくお願ひします。

転生 プロローグ：かけいおん！

どうも、俺の名前は風華 桜花 現役2年の高校生だぜ！

そんな俺は今、一つの問題に直面している。

それは、ここはどこだ！ と言う口トだ

桜花「・・・ん~、確か俺は学校の帰りに・・本屋によつて・・・立ち読みしてたら・・・！」

桜花「そうか！俺死んだ！！」

？？「その通りです！」

？？「え~・・会話はめんべくさいんで一方的に喋りますよー。」

？？「貴方は死にまして・・それは私どものミス、貴方はまだ死ぬべき人ではないのです」

？？「なので私どもはお詫びとして転生をプレゼントしようと思ひます「ちょ・・話聞いて・・」！」

？？「申し遅れましたが私は、神様です。」

？？「それで転生の事ですが、貴方は生前、アニメや漫画が大層お好きだったようなので様々なアニメの世界に転生してもうつことになりました。」

神様「それで、アニメの世界と言つてもランダムに送りられるのすごく死んでしまう可能性もあるわけです。」

神様「そこで、特典として貴方に一二能力を与える事にしました。」

神様「与えられる基本能力は、あらゆる力操る能力です。」

神様「これは、貴方や貴方の周囲の物のあらゆる力操ることができます。」

神様「次に、身体能力の最強化。」

神様「これは、文字通り貴方の身体能力を他の追随を許さないほどに強化させます。」

神様「最後に・・・そうですね、可愛い娘に縁があるくらいの恩恵をあげます。」

神様「まあ? これは縁があるだけで、モテるわけじゃないんですけどねー。『まあ みるー!』

神様「まあ、こんなもんですかね。」

神様「んじゃあ、そろそろ行つて来て下さいーーあ、その世界で死ぬか物語を終えることで次の世界に赤ん坊になつて転生、またはその世界によつては今の年齢で転生します。世界ごとに得た力や経験は引き継がれるので安心して下さい。容姿については転生」とに変わりますんでよろしく」

神様「それじゃ、逝つてらっしゃい!」

パカツ・・・ヒュゞ

・・俺は思った、一方的すぎる神様にただ一言”死ね”と・・・

目が覚めるとそこには、幸せそうに俺を見る両親と、赤ん坊になつた俺の小さな手があつた。

そこから始まる転生人生、第一の世界で俺は”平沢 桜”として生きていく

桜ヶ丘入学！・・・けいおん！（前書き）

え～頑張ります！

桜ヶ丘入学！・・・けいおん！

はい、ビーも風華 桜花こと平沢 桜です。男なのにせへりと読みます・・何故だ・・

まあ、そんなこんなで早くも中学三年生になつた俺は双子の妹である平沢 唯とともに受験勉強に励んでいる。

受ける高校は・・まあ、原作に關与したいので桜ヶ丘高校に願書を出した。補正がかかつてゐるのか共学化してたしね。

唯「おーくん・・・」れ・・・分からないよ・・・・・くつ

桜「はあ・・・無駄に深刻そうに言つた。で?どれだ?」

唯「いれ~」

とこんな感じ、唯のいう”おーくん”と言つのは桜 おうとも読める おーくん。と言つた感じでできた呼び名。

原作通り、唯は頭が悪い。・・・俺?俺はあれだ貰つた力を操る能力で読解力、理解力、解析力、計算力・etcを限界まで上げたのさ!卑怯?何それおいしいの?って感じだ。

ちなみに、俺は既にギターを持っている。少ないごづかいを貯めて買った。実力は・・多分上手い方、小学3年頃からギター無しでも本やら読んで勉強してたし、暇があれば弾いてたから実力は有るはずだ。そのために演奏力や歌唱力底上げしたんだしw
もう一度言おう、卑怯?なにそれおいしいの?

憂「お兄ちゃん、お姉ちゃん、少し休憩したら? クッキー焼いたから一緒に食べよう?」

唯「お~クッキー~! 大好き~!」

憂「あはは、私もだよお姉ちゃん」

これも、恒例の行動だ。唯が抱きつこうと憂が嬉しそうに抱きつかれる。まあ、俺にもしてくるから困るんだけどね・・・

桜「ん~、じゃあ休憩にしようか

・・・居間・・・

憂「むぐむぐ・・・で? お姉ちゃんの勉強はどうなの? お兄ちゃん?」

桜「ん? ・・・絶望的だ・・・

唯「え! ? そんなに! ?」

桜「冗談だ、まあ・・あと1ヶ月あるしその間ちゃんと勉強すれば行けるだろ。」

憂「そつか~、よかつたねお姉ちゃん!」

唯「うん~むぐむぐ・・もぐもぐ・・・

桜「・・唯、俺のクッキーを取るな

唯てへへ・」・

桜「まあ、良いよ。ほら食べろ」

唯一良いの? おーくんの分なのに。。。

桜「クツキーを凝視して言うな。いいよ、俺はお前らの兄ちゃんだ
からな」一四ツ

唯 - ニ・・うん!! ありかどニ!! // // // //

憂

唯 - むくむく・・・ぐん^ン・・・お^シ!!勉強すんなー!!

シテ、総文お一ぐんと同じところは行くまで済めたモノ！」

様はははまお元強てぐれ

憂鬱な顔で！お姫ちゃん！」

そして、
合格発表の日

まあ、俺は受かった。全問正解だ。面接、学科で最高1500点満点の中1500／1500を取ると言つ快挙だつたw そんでも唯はと叫ぶと・・・

唯「うう・・・・・・

桜「おーおー・・・まだ縮こまつてんのか?」

唯「だつて緊張するんだもん・・・

まだ、合格発表を見れずにいた。
そして結局・・・

唯「おーくん!見てきてー!お願い!」

と受験番号を渡してくれる。

桜「はあ、分かったよ・・・」

番号は・・・1127か・・くすつ・・アイツの誕生日と同じだな・
・つとえーと1127・・1127・・
俺は、1120から順に見ていく、1120・・1121・・11
23・・1126・・1128!?・・まさかの不合格・・
と俺は唯の元へ踵を返すと振り返る途中である掲示板が見える。
そこには『補欠合格者』と書いてある。何らかの理由で合格者が入学できなくなり急遽合格となつた者だ。

そこには大きく5人の合格者か書いてあり。その中に『1127
平沢唯・・・合格』と書いてある。

桜「はあ・・・悪運の強い奴だよお前は・・・」

と俺は微笑んだ。

桜「おい唯！合格してるぞーーー！」

と大きく言つてやると

と唯一飛び跳ねて喜んだ。

その日の晩御飯は憂が張り切つて過去見ないほどの御馳走だった。

主人公設定（前書き）

これ入れるの忘れてました・・・

主人公設定

- ・主人公：平沢 桜
- ・年齢：16才 誕生日は11月27日
- 唯の双子の兄として生まれる。
- ・能力：あらゆる力を操る能力 自分または周囲の力を自在に操ることができる。
現在は、計算力等をあげて利用している。イカザマ
- ・容姿：ブリーチの一護の死神の力を失う直前の髪が長かつた時の奴で茶髪
- ・神様の手違いで死んでしまった現役高校生。それを神様がお詫びと言つて一方的に転生
- その際、能力も渡されてしまった。個人的には輪廻に戻つて生まれ変わるものいいと思つていた。
- ・転生最初にけいおん！の世界に来る、家族構成は平沢家・・つまり主人公である平沢唯の兄として生まれてきた。
- 妹には多少甘い。そのせいか唯や憂にもかなり好意を持たれている。

端活が・・・なんかな？？？（謔）

「ここにはチャルノです！」

今日はとつあえず入部 ギタービジネスまで行きたいんですけどー！

部活が・・・ひとつもつかな？・・・けいおん！

どーも、平沢 桜です。

前回、唯の世話をしながらもなんとか無事桜ヶ丘高校に入学しました。

んで、入学式を終えていま教室です。なんと唯と同じクラス！原作メンバーも紹介が同じです。

現在、自己紹介の時間ですね！

A 「・・・です！よろしくお願ひします！」

俺の前のクラスメイトAさんが自己紹介を終える。

桜 「（俺の番か・・・）」 ガタツ

桜 「え・・・平沢 桜です。趣味はギターとか家事全般、特技は・・・運動が得意です。これからよろしくお願ひします。」

A 「・・・」

G 「・・・（カツコ）」

その他（先生含む）「ほー・・・」

先生「はっ・・・んん！で・・・では次の人」

唯「はいっ！平沢唯です！おーくんの妹です！趣味は『Jazz』あることとおーくんに抱きつくることです！特技はありません！」

A 「おーくんつて・・・？」

桜「ああ、俺の事だ」

桜「唯、余り変なことを言つた。それと自己紹介はもつときつちつやれ」

唯「ええ～？ い～じやん！」

桜「まったく・・・いいからもう座れ・・・」

唯「ふー・・・はーい。」ガタツ

和「唯？ 桜？ 何やつてるの？？」

「こつは原作でもおなじみ、俺達平沢兄妹の幼馴染だ。こつこは唯がらみでいろいろ世話になつた

桜「ん？ 唯がなどこの部活に入ろうか～ってな

唯「う～・・・」

和「まだ、決めてなかつたの！ う～一週間もたつてゐるわよ？」

唯「で・・でも私得意な事とかやりたい」とも無いし・・・

和「はあ・・・」いつやつて「一ートが出来上がりつてくのね・・・」

唯「部活やつてないだけで「一ート」・?」

和「桜はまだ部活には入つてないの?」

桜「ああ・・・唯がな、昨日」

・・・昨晚、平沢家・・・

唯「ねー、おーくんも一緒に部活に入らうよーお願いー」

桜「なんでだよー別にいいじゃねえかー唯は唯でやつたといひ入れよ」

唯「でも・・・」

桜「・・・はあ、分かつたよ・・・で?ど?にに入るんだ?」

唯「それが、まだ決まってないんだ」

・・・・・・・・・・

桜「つて感じなわけだ」

和「あんたも大変なのね・・・」

桜「ああ・・・もう慣れたさ」

唯「むむむ～・・・」

そこからしばらく考えていた唯だが、結局決まりずその場は解散となつた。

（唯 side）

私は今、部活紹介掲示板を見かけたので見ていて
おーくんも同じ部活に入ることが決まったのはいいんだけど
どこに入ろうかな・・んん？

唯「軽音部・・？」

ちょっと気になるな～・・何をする所なんだろ？
軽い音楽って書くから・・カスタネットとか？口笛とか？

唯「やつてみようかな・・・」

とこいつとで軽音部に入ることにした。

（唯 side out）

（桜 side）

桜「え？ 軽音部？」

唯「うん！」

桜「何するところが分かってるのか？（原作通りだな・・・）」

唯「ううん。でも軽い音楽つて言つていいだから、きっと大丈夫だよ~」

桜「ふ~ん・・まあ、間違つてるな」

唯「えつ~?」

憂「お姉ちゃん・・軽音部つて多分バンドとかするとこひだよ~。」

唯「バンド?」

憂「うん。ギターとかドラムとか」

唯「ええ!~?私ギターなんて引けないよ!~?」

桜「まあ、この機会に初めてみたりひつだ?俺もギターやってるから入れるし」

唯「・・・うん、分かつた~やつてみるよ~。」

・・・翌日・・・

唯「と言つわけで、軽音部つて所に入つてみました~。」

和「そななんだ・・でも大丈夫なの?」

桜「大丈夫だ、俺がちゃんと面倒見てやるから」

和「そう、じゃあ大丈夫・・ね？」

唯「なんで疑問形なの？和ちゃん・・」

桜「気にしなさんな。んじゃ唯、行くぞ～」

唯「うん…じゃあ行つてくるねー和ちゃんー」

和「頑張るのよ？唯

・・・音楽準備室・・・

唯「あつあつあつ」

桜「どうしたよ・・・唯・・・」

唯「あれだよ・・・真っ白な人が・・・」

桜「ココは一応去年まで女子校だつたんだ・・・お前の思つよつた姿
をした奴はいないだろ・・・」

唯「でもでも・・・」

桜「はあ・・・」

ガシツ

唯「ひやあつーーー？」

律「なにやつてんの？あんたたち？」

桜「おうっ（りつちやんですね分かります）」

律「まさか、あんたたちが平沢さん？入部希望の？」

唯「は・・はい？」

律「そつかー！聞いてるよー！…ギターがすぐ上手いんだよねー！」

桜「…（じつ、話聞かねえな）…」

律「おーい！入部希望者がきたぞー！しかも一人だー！」

・・・という感じの過程があつて、現在は、原作のように唯が退部しに来たとかいうことも無く進み楽器の話になつた

唯「えーと…私、ギターとかできないんだけど…大丈夫かな？」

律「うーん…大丈夫じゃないか？」

澪「うん、これから始めるよ！」

紬「そうそう、これから頑張ればいいのよ！」

唯「じゃ…じゃあ、私ギター始めるよー！」

三人「「おー！」」ぱちぱちぱち

で、唯はギター担当となつた。

律「で、桜は何をするんだ? やっぱりギター? それともベース?」

澪「始めるとならその一いつが無難かな?」

桜「俺は、ギター弾ける」

律「私的にはベースが似合つて弾けるんかい?」

桜「ナイスなツツコミだな!」

律「うるせこわい!」

澪「じゃあ、今心配するのは唯だけで良いのかな?」

唯「うるせー!」

紬「じゃあ、唯ちゃんのギターについてはまた明日考へましょー。」

唯「そ、うか、私ギターやるんだつた!」

桜「いじは喫茶店じゃねえぞ!」

唯「てへへ・」

そんな感じで、俺と唯の初部活は終了した。

・・・平沢家・・・

桜「唯～？ いるか～？」

唯「うふふ～。どうしたの～？ あーくん？」

憂「う～飯もう出来るよ～。あれ～お兄ちゃんはその大きな箱？」

桜「うん、唯にプレゼントだ。ほり俺受験で忙しくて唯の誕生日にプレゼントやれなかつたじやん？」

憂「ああ～やうこえまわつだね」

やう、あれは中二の受験戦争真っ只中の！」

平沢家、唯と桜の誕生日

憂「お兄ちゃん、お姉ちゃん！誕生日おめでと～。」

唯、桜「おお～あつがとう～憂～」

憂「う～れは私とお父お母お姉お兄からプレゼントだよ～。」

俺と唯はそれぞれ「う～う～プレゼントを受け取る。

唯「ほじ～。れ私がお父お母お姉お兄からプレゼントだよ～。」

俺がもらつたのは、唯がいつも着てるような文字の書いてあるTシャツ三枚だ

桜「お・・お・、あ・り・が・と・り・」

唯「ビー・いたしましてー。」

俺はここで、一応唯への贈り物は置つてあるしあじこで渡すわけには行かないな

桜「すまん・・俺は唯へのプレゼント用意できなござんが・・・」

唯「そ・う・な・の・? でもここよー・・氣にしなくてもー。」

桜「いつかちゃんと渡すから、期待して待つてくれー。」

唯「そ・う・・・じ・や・あ、期待してゐるねー。」

とこな感じで俺は唯にプレゼントをあげなかつた

現在

唯「あ・あ・確・か・に・そ・う・だ・つ・た・ね・」

桜「で、今回そのプレゼントを用意した」

唯「え!・? 本・当・? わ・い・? 」

桜「ほ・り、こ・こ・つ・だ」

俺が渡したのは、ギター・・それも原作で唯が勝つたギターだつま
りギブソンのレスポールだ

唯「わ～…可愛いギター…・ありがと…」

憂「わあ…かかったね…お姉ちゃん…」それでギター始められるな…」

唯「うん…本当にありがと…」

「それで…・・せつと整音部が始められるかな…・・まだ

中間テスト！？唯H・・・けいおん！（前書き）

今回は、合宿編！結構楽しい感じがする！

中間テスト！？唯　・・・かいおん！

はいびーも、平沢 桜です。

唯がギターを始めてから約一ヶ月。

もつすぐ合宿の始まる時期です、ですがその前に・・

唯「うう・・中間テストのこと忘れてたよ～・・

桜「おう、やんな」と慌てねえできぎきび勉強しろ！

唯「うひひ・・・わはぱり分からなにより・・

今、唯の再試の勉強をしてこる、なぜなり唯は中間テストで赤点を

取つてしまつたからだ

うへん、これはどうするべきかな・・ん？そつだ！

桜「唯、明日は休みだし軽音部の監を誘つて勉強会をしよう！」

唯「え？・・うんーー！」

桜「皆に教われば、お前でも何とかなるだろ・・」 ピ・・ピ・・

P.i

とうねるねるねるねるねるねるね・・・がけ

律『びうじた？桜？』

桜「おう、実は今唯の再試勉強してんだけど、よければ軽音部メンバーで集まつて勉強を教えてやつてくれんね？」

律『ああ～・・確か唯がテスト受かんないと部活続けらんないんだよね～・・ん！いいよ～。凌達こはあたしが伝えとくべ～』

桜「わい、よろしく頼む・・明日、わいに来てくれ

律『おひー・じやな～』

桜「ん、じやな～」

・・・・・！

桜「つてことで、明日みんな来てくれっからみつちつせわよ～

俺は、唯を面間に残し部屋に戻った。

唯「はーい・・

・・・翌日、平沢家・・

凌「来たやー、唯ー？」

律「おじやましまーっすー！」

桜「わい、こひつじやー。今日はよろしく頼む。」

凌「あ、整音部の皆ですか？こひつじやー。こつも姉と兄がお世話になつてますー！」

2人「（出来た妹と兄だ！）」「

桜「スリッパだ、はいてくれ」

憂「あ、荷物預かります。」

2人「（）は旅館か……（）

・・・唯の部屋・・・

唯「あ、いらっしゃい。りっちゃん！ 澄ちゃん！」

律「おひ、唯。今日はみつけたからなー・澄がー・

澪「お前も手伝ひんだよー！」

桜「相変わらず仲がいいなお前ら」

澪「む・・とにかく！ 始めるぞー！」

そこから一時間後、家に来た紬も交え、勉強会は夜7時まで及んだ
唯「で・・・Xがこうなつて・・・Yがこう・・・でoが代入・・・出来
た！」

澪「どれどれ・・・うん、全部あつてるーこれなら大丈夫だろー！」

桜「そうだな、明日もこれなら大丈夫だな」

紬「じゃあ、そろそろ帰りましょーか」

澪「あれ？ 律は？」

•
•
•
居間
•
•
•

憂

—ちくしょー! もう一回...」

桜 おまえ 何 でんたよ ？」

俺は、律のそのずりずりしさと逞しさに呆れかえり、ため息をついた・。

翌日、放課後

唯
「」

桜
— 真っ白だな · · 唯 · · —

唯一「五五五五」。

唯は眞に白になり返却された答案も持てて部室へ向かう。

桜「大丈夫か？」

唯
だ
・
・
・
じよ
・
・
・
・
ひよ
・
・
「

じぎりへ歩き、部屋へ着く

律「唯…どうだった…？」

唯「ひつちやん…どうしたよ…」

澪「まさか…」

唯「ひや…百点取っちゃった…」

3人（桜のぞく）「「「なに…………」」

「…して俺達は、テストを乗り越えた。

・・・ある日、部室・・・

漆「もつすべ、夏休みだな・・・」

桜「そうだな」

そう、もうすぐ夏休みである。運動部はもちろん、文化部も一部活動をする。

提案されたけど・・
轉音部も活動するへき長期休み期間なのだ
原作ではここで荷が

「このままじゃダメだー宿題をしないー。」

とまあ、原作通りに合宿となり。

むぎの別荘に来ていた。

合宿！・・・けいおん！（前書き）

こんにちは！ チルノです。

今
回
は
合
宿
が
始
ま
り
ま
す
！
！

合宿！！！・・・けいおん！

はいどーも、平沢桜です。現在俺ら軽音部は合宿でむぎの別荘に来ています。

着いて早々、舞と舞が遊ぼうとした。

・ 靔と俺で止めたがむきのまさかの裏切りで多数決」より遊ぶ」と

今は、唯と律が海で遊んでいるのを俺、遠くで眺めていた。

桜「にしても・・あの別荘のでかさとむぎん家のスケールのでかさには驚いたな・・」

澪「ああ、それはそうだな。でも、こんなのもたまには良いんじゃないかな?」

「・・・そうだな」

俺と澪は互いに微笑む。

それを眺めてるむぎも話題のせいか苦笑している。

律「おーいーおおーーたーへーうー.おーおーーうーうー.」

唯と律がどこに持つていたのかビー・チボールを片手に俺らを呼んでいる。

「……………」にかつ

澪「あ・・ああつ／＼／＼（笑顔は反則だ・・・）」

紬「え・・ええ／＼／＼（なんだらりひじわざある・・・）」

唯「はーやーくーーー！」

桜「おー、今行くよーーー！」

ふむ、ビーチボールか・・俺の規格外の運動神経を見せてやひつ・・
！！

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

結果、俺は勝つた。

途中から、俺の反則加減を見た4人がチームを組み、4対1のバトルになつたが、

それでも俺は圧勝した。

ふん！見たか俺の規格外さを！！

律「いやーー桜は強いなー・・・

唯「そりいえば、おーくんは昔からずば抜けて運動神経凄かつたん
だよね・・・」

「遼ちゃん？ どうかしたの？」

澪「な・・なんでもない！」

桜「ははは、まあ俺も危なかつたよ結構。」

律「圧勝した癖に何を言うか！」

「はいはい・・・つとこれで準備できたかな?」

今、俺らは備え付けのスタジオで練習の準備をしている。
俺が準備完了と言つと、唯と律が途端にだらけ始めた。

「床が冷たくて気持ちいいよ～・・・」

律「なんか・・眠たくなつてきた」・・

Z
Z
Z
Z
Z
•
•
•
•
•

一人が寝始めた・・おい！

すると澪がスピーカーを寝ている一人の頭上に設置しベースを使つて大音量を出す。

” すだあああああああああああん！ ！ ”

一人も、その音でしぶしぶ起き上がり楽器を持つ。

やる気が感じられないな・・仕方ない此処は焼きつけるか・・

桜「はあ・・律と唯、じじでまじめに頑張れば俺がなにか甘いもの

でも作つてやるから頑張れ！」

律「え）・・お前、そんなもの本当に作れんのか）？」

「ちがちがん・・おーくんの作る料理やテザートよね・・むわわ
やんのケーキより圧倒的にこしいんだよーーー！」

律 な なん だつ て――――――?」

二人の小芝居が始まった、それにより律がやる気を出して練習がはるかに捗った。

「もうダメ・・・疲れた！」

律「うう・・もう・・だめ・・だ!」「どせっ

律と唯がオーバーに倒れ伏せる。

澪「確かに、かなり疲れたな・・・」

袖「うふふ」

澪が座り込み、むぎはそれを微笑んでみているが若干汗をかいている。

桜「ふう・・・じゃあ、練習はこのあたりにして4人とも汗かいたろ

?風呂入つて」によ

唯「うん、わかつた」

澪「じゃあ、お先に入るな」

紬「またあとでね」

律「のぞくなよ？」

律がにやにやしながら言つてきた。

桜「バカ言つてないで早く行け」

とじつじつと手を振る。

それを見て律はつまらなそうに出て行つた。

桜「さて・・俺は皆が入つてゐ間にデザートでも作るか」

（　　）

・・・

桜「ふわふわたーいむつと」

桜「出来たーれてこれを冷蔵庫に入れて・・つと」

俺が作つたのは、杏仁豆腐。

フルーツがたっぷり盛られた自信作だ。

唯たちはもう少し入つてゐるだろうし、多少いい感じで出来上がるだ

「その頃の唯たち

唯「澪ちゃんって何がおもしろいのよ……」「

澪「な……なんだ? 二きなつ

律「くそ、巨乳め……私たちの限界を越へる。

律が澪にお湯をかける。

澪「ふふつ……」

唯「おもしろい……私も……」

便乗して唯もお湯をかける

澪「ふふつ……」

そして、その結果。澪たのせお湯を滴りせりて青筋を浮かべる澪。

澪「おーおーえーいー……」

唯「あーあーえーいー……」

とこな感じで遊んでいた。

ちなみに紺は「『』『』笑しながら『』なんなら『』でも風呂に入るの憧れてたの～とこの感じで眺めていた。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

唯「ふ～・・あがつたよ～お～くん～」

律「あ～やつぱつしたー！」

澪「待たせたな。ゆづくつ入つてもいいれ」

紺「桜君は何をしたの？」

桜「ん？ああ、約束のトガートを作つたんだ。冷蔵庫には重つてから食つてくれ。」

律「おおー本当に一分かつた！」

桜「じゃあ、入つてくれ」

俺はそこを後にした。

・・・・・・・・・・・・

で、出でた。

え？時間飛んだ？男の風呂シーンなんつまんないだらうへつまりやうこい」とだ。

桜「で？お前らせなんで監禁でテーブルに座つてんだ？」

律「はは・・唯がな? デザート食べるのは桜が上がつてから一緒に
つて言うから待つてたんだ」

唯「私たちだけ先に食べちゃうのはいけないからねー。」

桜「ははは・・ありがとう唯「まほす

俺は唯の頭を撫でる。

うん、良い感じの位置にあつて撫でやすい。

唯「えへへ・・／＼／＼

桜「・・ん?「ゾクッ

寒気がする・・と後ろに振り向くと

澪「――――」

紬「うふふ・・・

「――――――――――――――――――

二人が、全く笑えない笑顔を浮かべていた。

唯の頭から手を離す。すると威圧感は無くなつた。

桜「(うへん・・俺、この一人にどつかでフラグ立てたかな?)

以外にも鈍感でない転生オリ主なのだった。

桜「そ・・それじゃ、 いただこうか！」

4人「いただきまーす！ー！」

それぞれ杏仁豆腐を食べる。

律「う・・・美味い！ー！」

澪「ホントだ・・・おいしいな。・・・でも女としてこれは・・・」ぼそつ

澪がなんか言つてるようだがよく聞こえない・・

紬「・・・これに勝てる料理なんて・・・」ぼそつ

紬もなにかいつてるしかし聞こえない・・

唯「相変わらず、おーくんの料理はおいしいね～！」

あ、ちなみに晩御飯は練習前に済ませてあるよ?
・・・作者が忘れてたからじゃないからね！

んで、合宿1日目は終わった。

マリソンか・・・って誰だお前りー?・・・けこおるー(前輪) (前輪)

マリソンです、こやあ・・・
男子歌をひょいとやつされました・・・

マラソンか・・・って誰だお前ら！？・・・けいおん！

どうも、平沢 桜です。

あの合宿も終わり・・・え？一日しかやつてない？いやだって・・・残りもおんなんじ感じだぜ？

遊ぶ 飯食う 練習 寝る・・・ほらこれだけ！というわけで合宿終わり！・・・ちよ、石投げんといて！？

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

おほん！・・・で、夏休みも終わり2学期！
2学期始まって有るイベントが待つている。

そつマラソン大会だ！で、今その話を教室で唯と紬と俺で話してた
んだけど・・・

？？「平沢桜！..貴様に勝負を挑む！..」

と、謎のイケメン君が言つのだよ・・・

桜「えと・・・誰？そんで何故？」

イケメン「俺はサッカー同好会 会長！杉本 剛！我らサッカー同
好会総勢は貴様に勝負を挑む！」

名前は分かったんだが、話を聞かないぞこいつ・・・

桜「えーと・・・そんでなんd「平沢桜ああー！我ら野球同好会は
貴様に勝負を挑む！..」・・・はあ・・・」

その後も、勝負を挑んでくる奴らがいた。
まとめると・・・

- ・挑んできたのは野球、サッカー、水泳、バスケ同好会の4つ。
- ・理由は、それぞれが軽音部メンバーのファンらしい、それで俺がその4人と仲がいいのを嫉妬して
- ・勝負方法は来週のマラソン大会で1位を取ること。
- ・勝った方（俺か各同好会のどこか）に軽音部メンバーがマネージャーとして入る。
- ・・・とにかくな感じ。
- 正直めんどくさいーーー！
- 唯「まねーじゃー？・・・おーくん、どうこいつ意味？」
- 桜「ん？つまりだ唯、この勝負に俺が負けたら軽音部の4人のうち1人がここからのどこかにマネージャーとして入会しないといけなってことだ。」
- 唯「ええ！？やだよー！そんなのやだ！」
- バス同好会『ゆいちゃあああああああん！！大好きだ　ーー』
- 唯「ひつ・・・！」
- 紬「わ・・わたしも・・そ・・それは嫌だわ・・・！」

唯が涙目になつてゐる、むきも反論してゐるが声が震えてゐる。
まあ・・こんな大勢で迫られたらな・・無理も無い。
とそこへ・・

律「おい！ 桜！ 聞いたぞ、ビットリハリとだー！」

澪「私達が景品にされてるって・・・」

律と濛が来た。なんとダイミングのいい・・

「知らん、こいつらに聞いてくれ。勝負を挑んできたのはこいつらだしな。」

律「こいつらが・・！」

澪「あ・・あのー私たちを景品にあらねのは・・その・・やめてくれませんか?」

律が何か言う前に澪がそういった。

全同好会「「「「「いや…それはできん…! 軽音部の美少女は俺達のもんだあああああああ…-----」」」」

・ ほゞやく・・いい加減切れてきたな・・ぶち殺したくなるくらいだ・
こいつらを物扱いしやがつて・・

桜「おい・・・てめえら」

唯「おーくん・・?怒つてるの・・?」

桜「お前らの言ひ分は分かつた、いこせ受けでやるよ。全員叩き潰してやる。」

律「桜！？」

澪一大丈夫なのか！？桜！？

「いくらなんでも無理な！ 桜君！」

「いいから、大丈夫だ、俺を信じろ。絶対、お前ら全員守つてやるから。」にこつけ

俺は、優しく安心させるように笑つてそういつた。

「…！ そ、か… わか、た信じるよ！ 桜！」 // // // // //

湯ノ川の川 稲も倣じる！

顔が赤い……どうしたんだ?

桜
一
・
・
・
唯

唯 一 ． ． ． 信 じ て る か ら ね ？ ． ． ． お 兄 ち ゃ ん ． ． ． ぐ す つ

桜「おう、信じろー！」

唯が俺をお兄ちゃんと呼ぶ時はいつも俺を本気で信じてくれていて本気で心配している時だ。
俺はそれを一度だつて裏切つたことはない。

桜「話は決まった、お前ら全員ここから出てけ！」

その一言で、彼らは全員出て行った。
不敵な笑みを浮かべながら

そこから、1週間。マラソン大会の日だ。まだスタートはしていない。

桜「よつ・・・・ほつ・・・」

唯「おーくん、大丈夫？」

桜「ああ、大丈夫だ」

準備体操も終えて、スタート位置に並ぶ。

このマラソン大会は男女混合だ。奴ら同好会は全員男。
この春入学してきた男子勢だ。人数は全部で50人ほど。
実質俺VS50人という構図だ。

審判「位置について・・よーい・・」

スタートの合図、俺はいつでも走れるよつて身構える。

ぱあああん！！！

その音とともに一斉に走り出す。

俺は後ろへ転がり、そして見たのは

気持ち悪い笑みを浮かべる男子共・・ブチツ・

桜上等じやねえか・・・クソ野郎共！！」

俺は全力で走りだす

וְאֵלֶּה תְּמִימָה תְּמִימָה תְּמִימָה תְּמִימָה תְּמִימָה

そして俺とクズ共の勝負が始まつた

マラソンか・・つて誰だお前り！？・・けいおん！（後書き）

次は、マラソンの攻防です！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2982z/>

世界を周るは転生者(チート)inけいおん！

2011年12月19日19時51分発行